

令和2年度 京都府自転車活用推進協議会 開催結果

■日時 令和2年10月12日（月）13時30分～15時15分

■場所 ホテル ルビノ堀川 ひえいの間

■議事

- 令和2年度 自転車施策の取組み状況
- WITH・POST コロナ社会における自転車活用

◇主な意見

(つかう)

- サイクルスタンプラリーなどのイベントは、密にならないレクリエーションとして全国で取組みが広がっており、府内でも進めてもらいたい。自転車は地元の人とのふれあいもあり、リピーター率も高い。
- 自転車ルート毎にターゲット層を定めるべき。上級者は、山間部や歩行者と分離されているルート、また長距離ルートが適当であり、京都一周ルートなどうまく設定すれば宿泊利用を含めた経済効果が生まれる。
- 京都府の自転車ルートは愛好者層でも認知度が低いという状況でありホームページ等を利用したアピールが必要。

(つくる)

- 自転車環境整備として、車道混在型の矢羽根整備から、パリなどで実施されているように車・歩行者を分離した自転車の専用レーンの設置へと段階的整備も必要。
- パーク&サイクル等公共交通機関と自転車利用の連携を進めていくことが必要であり、都市内移動を面的に捉えることが大事。

(まもる)

- 京都府にも美山のように地域主導の活動も行われており、そういった活動との連携が大事であり、参加者が“楽しむ”ことを重視にした自転車教室は参考になる。

(その他)

- 施策の評価は、ユーザー側にとって“自分たちにとって何が変わるのか”といった視点も大事。